

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	・難関、中堅私立大学進学者数の増加 ・基礎学力の定着度を測る外部学力調査（進路マップ実力診断テスト）における生徒学力レベルの向上 ・授業アンケートにおける生徒の授業集中度・満足度の向上
計画名	渋谷+S！学び充実プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	2 確かな学力の育成 (2) 「わかる授業・できる授業」をめざした授業改善の取組み ア 授業改善に向けた教員研修、研究授業の充実に努める。 イ 分かりやすい授業を進めるため、ICT機器や視聴覚機器の活用を進める。 ウ 教科ごとの学力の到達目標と達成へのロードマップを策定する。
事業目標	これまで講義室3台、移動用4台のプロジェクターを整備してきたが、十分とは言い難い、プロジェクターを積極的に授業で活用している教員もあり、ICT機器の充実を望む声が上がっている。普通教室にICT機器を整備することにより、国・社・教・理・英5教科を中心に、教材の視覚化を通して分かりやすい授業を追及する。また、総合学習での調べ学習の発表に活用し、生徒の学習意欲を高め、基礎学力のより確実な定着と応用力を備えた学力の向上を図る。3年後に、3年当初6割を占める大学進学希望者から、関西難関・中堅8私大現役合格15名を実現する。
整備した 設備・物品	電子黒板内蔵短焦点プロジェクター24台 書画カメラ19台
取組みの 主担・実施者	取組みの主担：学び充実プロジェクトチーム「学び充実PT」 取組みの実施者：各教科5割の活用を予定
本年度の 取組内容	学び充実プロジェクトチームの6月の会議において活用拡大のための機器使用説明会の内容を検討し実施した。12月の会議においては、ICT機器や視聴覚機器をより多くの教員が活用できるようにするための検討を行った。それにより、プロジェクター使用授業実践事例を集めた冊子を作成した。また、12月には活用状況調査を行い、ICT機器や視聴覚機器の使用方法についての問題点や要望を調べ、教室に遮光カーテンを取り付けるなどの環境整備を行うこととなった。6月と11月の授業公開週間には各教科による公開授業・研究授業を行った。
成果の検証方法 と評価指標	・関西8私大現役合格者10名以上。 ・進路マップ実力診断テスト（4月）の私大合格レベル以上の人数割合を3年次65%以上。 ・「授業アンケート『授業中は、集中して先生の話を聞き、学習に取り組んでいる』」「授業アンケート『興味・関心を持つことができた』『知識・技能が身に付いた』」を75%以上。
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） 評価指標として挙げた各項目については以下のとおりである。 ・関西8私大現役合格については、同志社大1名、関西大3名、近畿大1名、京都産業大3名、甲南大1名、龍谷大1名の計10名であった（○） ・進路マップ実力診断テスト（4月）の私大合格レベル以上の人数割合は3年次39%であり、目標を達成できなかった。（△） ・12月に実施した第2回授業アンケートでは、『授業中は、集中して先生の話を聞き、学習に取り組んでいる』83.3%、『興味・関心を持つことができた』75.9%『知識・技能が身に付いた』76.7%という結果となった。昨年度のポイントを上回っており、取組みの成果が表れている。（○）
次年度に向けて	・ICT機器や視聴覚機器を活用するための校内研修を新転任者や未活用者を対象に1学期の早期に実施し、年度内に全体の半数以上の教員が授業で活用する状況をめざす。 ・6月と11月の授業公開週間・オープンスクールにおいて各教科による公開授業・研究授業を行うとともに、外部へ公開する。 ・総合学習での調べ学習学年プレゼン大会の実施とその成果をWebページ等で公開する。